

平成 29 年度東北大学病院総合防災訓練に参加しました (2017/10/20)

テーマ：大規模災害、災害拠点病院、多数傷病者受け入れ、災害対策本部立ち上げ
場所：東北大学病院（宮城県仙台市）

2017 年 10 月 20 日(金)、宮城県仙台市の東北大学病院において、平成 29 年度総合防災訓練が実施され、当研究所の江川新一教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が災害対策本部プレーヤーとして、佐々木宏之助教（同）が訓練全般の運営担当、災害対策本部の訓練コントローラーとして参加しました。

東北大学病院は入院病床数 1285 床、1 日あたりの外来受診者数が約 3000 人にのぼる全国でも有数の巨大病院で、全構成部署数 120、職員数約 3300 人も全国トップクラスです。東日本大震災時には石巻赤十字病院ほかの沿岸各病院から患者さんの後方搬送を一手に引き受け、災害拠点病院としての役割を果たしましたが、職員の入れ替えも多く、ある部署では当時を知る職員が構成員の 1/6 にまで減ってしまったところもあります。

東北大学病院では毎年秋に、直下型地震被災を想定した多数傷病者受け入れを含む総合防災訓練を実施し、震災を経験していない職員であっても有事に活動できるように訓練を行っています。今年は職員・学生、消防隊、警察官を合わせ、総勢約 300 人が訓練に参加しました。江川教授はプレーヤーとして、佐々木助教は訓練裏方としてこの総合防災訓練に数年来携わってきました。

当日は午前中に、組織的な初動対応未経験の職員向けに簡単な講習を行い、その後、持ち場ごとの机上シミュレーションを行って各自の動き、傷病者の流れについて確認しました。昼食をはさんで、午後 1 時に実働訓練を開始しました。緊急地震速報を合図に、各職員は事前に割り当てられた持ち場に駆け足で参集しました。多数傷病者受け入れ部門ではチームビルディング後、トリアージエリアの設営や医療資器材の準備、そして傷病者の模擬診療が開始され、災害対策本部では、本部立ち上げ・患者職員の安否確認の情報収集、停止したライフラインへの対応、院内外で発生する様々な事象に対応するシミュレーション対応が開始されました。

災害対策本部では、病院長を本部長とする本部構成員が病棟会議室に参集し、安全確保後約 7 分で本部を立ち上げ、「アクションカード」と呼ばれる災害時の初動対応を記載したチェックリストを首から提げ、リストに沿って各役職の業務を着々と進めていきました。佐々木助教は本部アクションカードの策定を 2 年前に主導しており、今回の訓練では災对本部のアクションカード見直しを重点訓練項目として掲げていました。また、佐々木助教は災害研での研究成果を想定付与作成・改変に生かし、訓練コントローラーリーダーとして、一見理不尽とも思えるが実際に発生した事象を訓練終了の午後 3 時 30 分まで本部に付与しました。なかには帰宅困難者への対応、病院近隣での火災発生対応、青葉山キャンパスでの本学職員・学生傷病者への対応などがあり、一筋縄では解決しない想定に、幹部らは頭を悩ませながら対応策を検討していました。この被災想定シナリオについては昨年、本年と病院長講評にて高評価を得ています。

東北大学病院は今後も災害拠点病院として、様々な訓練を続けていく予定です。来年の総合防災訓練は外来対応を主眼とし、実際の外来受診患者のいない土曜日の開催を検討しています。



机上シミュレーション
(黄エリア)



机上シミュレーション
(赤エリア)



本部長（病院長）による災害
対策本部立ち上げ宣言の様子

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）